

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2375300262 | | |
| 法人名 | 株式会社ニノコーポレーション | | |
| 事業所名 | グループホームはなえくぼ扶桑 | | |
| 所在地 | 愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森字辻田398 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年 9月 1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年 1月20日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375300262&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年 9月25日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護上なにか問題があると全員で考え、とりあえず色々試してみても答えを出している。また、介護度1~5の方が利用されているが、介護度にかかわらず個別に対応できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの課題を管理者・職員全員で考え、工夫に工夫を重ねて改善を図る取り組みは、ホーム開設以来、継続的に実践している方法である。職員ヒアリングで「利用者の笑顔が励みです」の言葉が聞けたことでも、日常的な利用者本位の支援が推察できるが、逆に利用者の落ち着いた様子からも、終の棲家での満足した日常生活がうかがい知れた。また、廊下には職員の勤務表と本日の勤務者を紹介する配慮が見られ、家族を始め、ホームを来訪する全ての人に、ホームの役割と責任を堂々と公表する、高い意識と姿勢がうかがえた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ミーティングで理念について常に話し合い共有し実践できている。 | ホームの「思い」でもある理念は、管理者・職員に浸透し、利用者への日常支援として十分な実践がある。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に近所の方の訪問があったり回覧板が回ったりする。また、隣の保育園の園児の訪問や、ホーム内の行事にも地域の方の参加がある。 | 地域に根ざした交流を考え、回覧板・地域清掃等、地域の一員として交流を図っている。ホーム開設以来、継続的に取り組んでおり、現在では、ごく当たり前の自然な近所づきあいができるまでになっている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通して、地域の方々やご家族に向けて認知症の理解や接し方等の勉強会を行っている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、利用者の日常の様子を話すと共に、参加者の知りたい事に関しては、次回に詳しく報告するようにしている。 | 2ヶ月に一度の会議開催があり、議事録からも有意義な活用が確認できる。ホーム側からの報告にとどまることなく、専門家として参加者の質問に答える等、地域資源としての役割を果たしている。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 認定更新の機会等、町の担当者にホーム内の利用者の様子を伝えると共に、包括支援センターとの連絡も常に取り連携を深めている。 | 町担当者・地域包括支援センターとの関係は良好であり、ホームからの相談・報告だけでなく、行政側から認知症高齢者についての質問・相談を受ける等の協力・連携がある。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | スタッフが必ず一人はフロアにいるようにし、出て行く気配を感じた時は、連携しいっしょに外に出るよう対応している。 | 身体拘束排除をホームでの介護支援の基本に位置付け、方針を全職員で周知・共有している。玄関の施錠・居室の施錠はもちろんのこと、言葉掛けでの拘束までを考え、支援方法に反映させている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティングの際、虐待について話し合った事がある。しかし、詳しく学ぶ機会がなかったため、CDを活用しながら勉強会を行う予定がある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度については、以前活用していた方もあり、ミーティング時に説明している。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、運営者と管理者が利用者や家族等に看取りに関する事、医療連携に関する事等を詳細に説明している。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や家族会の時等、常に問いかけ、意見や要望を言いやすい雰囲気作りをしている。出された意見・要望はミーティングで話し合っている。 | 面会時・家族会・電話連絡時等に、管理者・職員が直接の聴き取りを行っている。聴き取った内容は速やかに協議・検討を図り、介護計画・運営に反映させている。今回家族アンケートでも、ホームの対応に対する評価は高い。 | 反面、「話ができる職員と、そうでない職員」に対しての意見もあることから、家族に対して再度の「相談窓口」周知、及び、職員に対しては、家族とのコミュニケーションについての心得等の周知が期待される。 |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回のミーティングの際、職員の意見や提案を聞いている。また、日常的にコミュニケーションをとるよう心掛けている。 | 良好な人間関係の中、職員が要望・意見等を述べる機会も多く、また、自身の意見が聴き取られることをやりがいにしている職員が多いことから、運営には何ら問題は感じられない。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 研修の機会が多く、各自が向上心を持って働ける。また、声をかけ合い休憩を必ずとっている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修にはできるだけ参加するようにしている。研修後はホーム内で発表の場を設けている。ホーム内研修はスタッフ間でミーティングの際に行っている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 町内のグループホーム同士の交流を行っている。2～3ヶ月に一度勉強会を行い意見交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所の時にご家族から生活歴等の情報を詳細に伺うと共に、ご本人の思いを受け止め、安心して生活して頂けるようサポートしている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初めて相談に訪れた時は、ご家族の苦労や今までのサービスの利用状況等をゆっくり伺い、訪問記録の用紙に記入している。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 早急に入所の希望をされている方には、町内のグループホームを紹介している。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に生活し、助け合う仲間となるよう努力している。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来訪時には、ホーム内での生活の様子をお伝えするようにしている。また、月一回ご家族に向けての近況報告を書いている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの喫茶店に本人の希望で出かけている。また、ご家族と一緒に墓参りにも出かけている。 | 地域からの利用者については、生活の継続も可能なことが多く、友人来訪・外出等、本人の希望に沿った支援ができています。また、利用者の希望を聞き取り、家族対応を支援し、希望をかなえる利用者もある。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | リビングの席は利用者同士良好な関係が保てるよう配慮している。また、お茶・食事の時間は職員もいっしょに過ごし、多くの会話を持つようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の事業所に移られた場合、これまでの生活の様子や支援の内容、注意事項等を情報提供し、連携に心がけている。 | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の思いを把握するのは難しいが、ご家族等に伺いながら、その人にとって今何が必要かを検討している。 | 職員の声かけ表情からは、利用者との馴染みの関係がうかがえ、職員と話す利用者の様子はいかにも満足げであり、利用者一人ひとりの思いは支援に活かされている事が推察できる。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時、ご家族等に生活歴を詳しく伺っている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々のカルテに詳細に様子を記入し、状況の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月一回のミーティング時、職員全員で意見交換を行っている。 | 今年度、さらなる利用者本位の支援を考え、ケアプランの様式を見直し、改訂している。利用者・家族の要望の変化や、職員の気付きにも対応できるように、月1回は評価を行い、より現状に即した支援提供が可能になるように工夫している。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 月一回のミーティング時、個々のケア目標を立て、毎日カルテに記録している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況に応じて病院受診にも出かけている。また、面会時状況に応じて食事を提供する場合もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 隣の保育園との交流、利用者さんの馴染みのお店への月一回の食事、地域の理髪店の活用などがある。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所の際、病院の関しては第一希望、第二希望まで伺っている。また、日々の状態は、嘱託医に週一回の往診をお願いしている。 | かかりつけ医に関しては利用者・家族の希望を優先している。ホームとしては、嘱託医の週一回の往診の機会を確保し、受診を支援している。訪問調査中に垣間見た、談笑しながら嘱託医師の往診を受けている利用者の様子から、医師との信頼関係がうかがえた。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週一回訪問看護師が来所し、健康状態を把握している。また、緊急時は24時間対応可能である。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはサマリーを記入し、医療機関に提供している。時々面会に行き、状況を把握するようにしている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時、終末期ケアのアンケートに記入してもらっている。また、その時々に応じて、ご家族、訪問看護師、医師、管理者との話し合いの場を設けている。 | 利用開始時に、利用者・家族の意向を確認している。終末期には状況の変化を家族と話し合い、ニーズに応じて医師・看護師と連携を図り、看取りの支援にも取り組んでいる。職員の看取りに関するスキルは高い。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応や救急救命法は実施しているが、定期的に行ってほしい。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎月一回避難訓練を行っている。また運営推進会議においても地域の方々に協力を呼びかけている。 | 月1回の避難訓練、地域への協力を呼びかけ、消火器を誰でも活用できるように、食堂の最も目立つ場所に大きく表示して設置する等、災害に対する実践的な取り組みは評価できる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 基本的な部分ではできていると思う。特に利用者の方に対する声かけには気をつけて対応していると思う。 | 利用者の尊厳を保つ支援は、今回の家族のアンケートの回答にも、職員の言葉がけ対応に対し、高い評価がある。訪問調査視察でも、職員の声掛けに問題は感じられなかった。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事のメニューはなく、その都度可能な限り利用者の方に伺い対応している。材料の関係でできない場合もある。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のコンディションに合わせて居室で休んで頂いたりしている。しかし、職員の都合を優先している場面も時々見られる。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床時服を選んで着て頂いている。また、行事の時など化粧をしおしゃれを楽しんでもらっている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | お一人おひとりできる事が違うので、個々のできる事を手伝って頂いている。 | 献立は、あらかじめ購入してある食材の中から利用者の希望で当日に決めている。楽しく食べられるように、テーブルの配置・座席を工夫し、職員も一緒に食べている。当日にも、利用者が盛りつけや後片付け等をさりげなく手助けをしている様子が見られた。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人おひとり食べやすい状態で提供している。また、食事摂取量をチェックしている。現在は三名の方のみ水分量のチェックを行っている。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは毎食後行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を作成し、お一人おひとりの排泄パターンを把握している。 | 排泄チェック表を活用し、利用者毎の排泄パターンの把握ができていくことが理解できた。排泄の自立に向けた支援は、ポータブルトイレの現状に添った設置場所・活用からもうかがえた。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維の多い食品を提供すると共に、毎朝冷たい牛乳を飲んで頂いている。また、排便困難の方には、医師、看護師の指示にて排便コントロールを行っている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の体力に合わせて支援している。拒否のある方に対しては、声かけ等工夫して行っている。 | 入浴は毎日支援している。入浴を拒む利用者には、無理強いする事なく、利用者の意向を尊重した対応を行っている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | お一人おひとりの状況に合わせて休息をとって頂いている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全員の服薬一覧表があり把握している。また、変更があった場合は業務日誌やカルテに記録し情報を共有している。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | お一人おひとりのできる事を把握し、場面ごとにお願する事で生活に張り合いを持って頂いている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 可能な限り出かけるようにしている。また、本人の希望が遠方の場合、家族にお願いし外出している。 | 外出には消極的な利用者が多い現状の中、誘い合わせて散歩・近くの喫茶店等に出かけている。月1回、こだわりの「うどん店」に出かける方の個別支援も行っている。その他、墓参り・外食等、家族対応の外出の支援もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お一人だけ自分でお金を持っていて買い物に出かけられる。その他の人は事務所で預かっている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ハガキや手紙の交流はある。また、希望に応じて電話の支援も行っている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関やトイレには季節の花が飾ってある。また、庭にはプランターに野菜が作っており、時には食卓にのぼる事がある。 | 共有の空間は清掃が行き届き、悪臭もなく、さりげなく生花を飾る配慮が見られた。廊下には、往年の映画スターの写真を利用者の目線で掲示する等、利用者を思いやる様々な配慮もあり、利用者の穏やかな口調での会話からも、落ち着いて生活できていることが実感できた。 | 管理者は、住居が密接しているため日当たりが悪く風通しも充分でない環境を認識している。利用者が容易に外気に触れられるバルコニーの活用は顕著である。工夫に工夫を重ね、利用者本位の支援を実現するホームに対し、さらなる工夫と配慮の継続が期待される。 |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 庭にはプランターに花や野菜が作っており、ベンチが二つ用意してある。また、廊下には長いソファがあり、懐かしいスターの写真が貼ってある。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具を持ってきて頂いている。また、ご家族が持ってこられた写真やメッセージなどがあり、個々に工夫されている。 | 利用者から「私の部屋ですどうぞ」と招いていただけただけでも、利用者にとって自慢の住居であることが確認できた。どの居室も、本人のこだわり・好みが十分に活かされた居室となっている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | お一人おひとりの状態の変化に応じ、その都度話し合い対応している。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|---------------------------------------|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 49 | 日常的な外出支援として、可能な限りでかけるようにしているが、現在個別支援が1組だけに限られているので全員に支援していきたい | 月1回交代で、全員の利用者がなじみの場所へ出かけられるよう支援していきたい | ご家族にも伺いながら、なじみの店や昔よく出かけた場所等に出かけられるよう個別支援をしていきたい。又、月1回しっかり計画を立てて実施していきたい | 12ヶ月 |
| 2 | 40 | 食材は季節の物を使っているが、もっと食卓に季節感を出していきたい | 玄関先やバルコニーを利用しながら、四季を感じられる献立を提供していきたい | 春は田楽や五平餅、夏は流しそうめん、秋は七輪でサンマを焼いたり、冬はすき焼き等の鍋物を行なっていきたい | 12ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。